



6月14日 ゆいの会による人形劇
「赤ずきんちゃん」

和

第29号 (平成25年 夏号)



編集：大阪市立総合医療センター 地域医療推進小委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)
<http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3柱の理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

～ 掲載内容 ～

- コメディカルのお仕事紹介「臨床心理士」
- 疾患解説シリーズ
「狭心症・心筋梗塞について」
- がんの診療について
「肝がん（肝細胞がん）」
「当センターが取り扱うがんの種類」
- 「病院ボランティアの活動紹介」
- 市民公開講座のご案内

■ コメディカルのお仕事紹介「臨床心理士」

私たち臨床心理士は、当センターの精神神経科、児童青年精神科を始めとして、遺伝子診療部（遺伝子カウンセリング室）、小児血液腫瘍科、周産期センター（NICU）、患者支援センターに配属されています。職員数は常勤職員6名に加え、本年4月の非常勤職員採用に伴う増員によって、総勢13名となりました。所属する部署の特性によって仕事の内容や対象とする方は様々ですが、何らかの心理的な悩みや問題を抱えた方々とお会いしてお話を伺い、理解することに努め、共感を伝えて信頼関係を育むことは共通しています。そして、その方が自分の問題と向き合って、潜在的に持っている力に気づき、問題の解決や成長に向かっていくという根気のいる作業を、私たちは援助しています。

また、チーム医療の一員として他職種のスタッフとの協力・連携も重要な業務です。様々な病棟から依頼を受ける精神神経科リエゾンチーム、緩和ケアチーム及び子どもサポートチームにも加わっています。心理面の特長や状態を評価することも大切な業務で、医師の指示のもとに心理検査を実施しています。心理検査のデータを解析して、精神面の特性や病態水準、認知・言語面の発達水準と個人的な特長などを把握し、診療に寄与しています。

近年、心理的なサポートへの社会的なニーズは広がりが高まりを見せています。今後も心理士各自が高い専門性を持ちつつ、人のこころと寄り添う仕事をしていきたいと思っております。



■ 疾患解説シリーズ

狭心症・心筋梗塞について

大阪市立総合医療センター 循環器内科部長 成子 隆彦

心臓病はがんについて日本人の死亡原因の第2位となっています。欧米化した食事の内容、ストレス、運動不足、喫煙により狭心症や心筋梗塞は若年から高齢まで全世代で増加しています。

◆狭心症・心筋梗塞とは

冠動脈は、外膜、中膜、内膜の3層で形成され、表層は、内皮という一層の細胞で覆われています。しかし高血圧や脂質異常症、喫煙により内皮が傷害されると内膜の部分にコレステロールを主成分とした沈着物が蓄積し、プラークという内膜肥厚が形成されます(図1)。このプラークが、増大し破綻することで冠動脈の狭窄や閉塞を生じ、狭心症や心筋梗塞を発症します。狭心症は、一過性の心筋虚血による状態を示し、心筋梗塞はその血流域の心筋が壊死に陥った状態を示します。

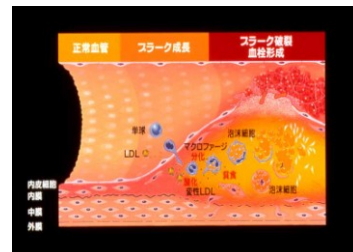


図1 冠動脈プラークの成長と破綻

◆狭心症・心筋梗塞の症状

狭心症は、胸が締め付けられるような痛みが特徴。ただし痛みの感じ方はさまざま、胸が重い感じ、あるいは単に不快な感じ、胸ではなく首がびりびりと痛んだり、歯痛を感じる場合もあります。心筋梗塞の場合は、胸の痛みも20~30分以上と長く続き、冷や汗や動悸を伴ったり、意識を失ったりして、そのまま死亡することもあります。まれに、心筋梗塞になっても胸の痛みがないことがあります。

◆狭心症・心筋梗塞の検査

通常の検査では、痛みが起きている最中や心筋梗塞後でなければ、特定することは難しいのが現状です。最近では「冠動脈CT」という新型CTの検査で、冠動脈を1mm前後の細い枝まできれいに撮ることができます(図2)。これらの検査での異常所見があった場合は心臓カテーテル検査を行います。心臓カテーテル検査は、手首や肘または足の付け根の動脈や静脈から管(カテーテル)を挿入し、心臓を養っている冠動脈を造影します。当院では年間約1000件前後の検査を行っております。

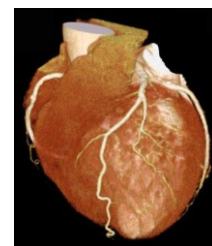


図2 冠動脈CT

◆狭心症・心筋梗塞の治療法

冠動脈造影で異常が見つかった場合は、薬による治療か、カテーテル治療、冠動脈と大動脈のバイパス手術を行うのかを決定することができます。カテーテル治療には主に、バルーンによる拡張、ステント留置術、血栓吸引治療などがあります。当院では年間約350件前後のカテーテル治療を行っております。最近ではステントに抗がん剤や免疫抑制剤を塗った薬剤溶出性ステントを使用することもあります(図3)。急性心筋梗塞のように血管内に血栓が多い場合には、特殊なカテーテルを用いて血栓を吸い取る血栓吸引療法を行います(図4)。

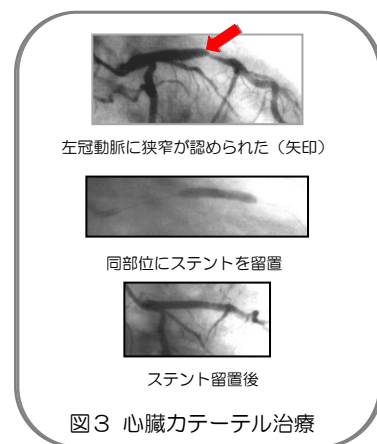


図3 心臓カテーテル治療

◆狭心症・急性心筋梗塞の予防

狭心症・心筋梗塞の予防・改善には、次のような生活習慣の見直しが必要です。

- (1) たばこは吸わず、お酒はほどほどにする。
- (2) 塩分を減らし、脂質・コレステロールはとり過ぎず、魚や野菜を十分にとるなどの規則正しい食事をする。
- (3) 肥満を解消する。
- (4) ウォーキングなどの有酸素運動を1日20分以上、1週間に3日以上行う。
- (5) 「せっかち」を改め、ストレスをため込まない。

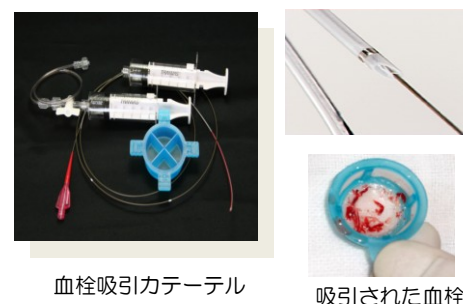


図4 血栓吸引療法

■ がんの診療について

肝がん（肝細胞がん）

大阪市立総合医療センター 肝臓内科部長 木岡 清英

1. はじめに ～「肝がん」について～

「肝がん」は肝臓から発生した「原発性肝がん」と他の臓器のがんが肝臓に転移した「転移性肝がん」に分類されます。今回は、「原発性肝がん」の大部分を占める「肝細胞がん」（以下、肝がん）について説明します。肝がんは年々増加し、男性では肺がん、胃がんについて死亡の第3位に位置しています。現在、全国で年間3万人以上の人が肝がんによって死亡しており、大阪府は肝がんによる死亡率の高い地域となっています。

2. 肝がん（肝細胞がん）高危険群と早期発見の方法

「肝臓は沈黙の臓器」と言われるように、初期の肝がんは無症状で自覚症状からの発見は困難です。肝がんの「超高危険群はB型およびC型肝炎」で、「高危険群はB型慢性肝炎・C型慢性肝炎およびB・C型以外の肝硬変」です。危険因子は男性・高齢・アルコール多飲・脂肪肝（肥満・糖尿病）です。このような患者さんは肝がん早期発見のための定期検査が必要です。定期検査とは1～3か月毎の腫瘍マーカー（血液検査）と3～6か月毎の腹部超音波検査です。定期検査で異常を認められた場合はCTやMRI検査などで肝がんの診断を行います。

3. 肝がん（肝細胞がん）の治療法

一般に早期がんは、手術をすれば、根治します。ところが、肝がんの場合は早期がんでも肝硬変を合併していて肝予備能（肝臓の力）が低下していると、手術ができないことがあります。また、手術などの根治的治療を行っても、ウイルス性肝炎を合併していることが多いため、1年で約20%、5年で約80%の患者さんが再発します。このような不利な条件が肝がんにはあります。その反面、一般のがんと異なり、手術以外にも有効な治療法があり、再発しても肝予備能が良ければ、繰り返し有効な治療を行うことができます。

肝がんの主な治療法には①肝切除（手術）、②経皮的局所治療（肝がんを細い針を刺して、ラジオ波で焼灼またはアルコールを注入してがんを破壊する治療）、③肝動脈塞栓術（肝がんを栄養している肝動脈を塞栓して、がんを壊死させる治療）の3つがあります。それぞれ長所と短所があり、患者さんに最も適した治療法を選択することが重要です（表）。

肝がんの主な治療法の長所と短所		
	長所	短所
肝切除（手術）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確実な治療効果 ・ 大きいがんにも対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肝臓の働きが悪いとできない ・ 負担が大きい
経皮的局所治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいがんなら治療効果 確実 ・ 負担が小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きいがんやがんの個数が多い場合は適さない
肝動脈塞栓術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多発するがんも一度で治療可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療効果が不確実となる ことがある ・ 肝機能の悪化

4. おわりに ～再発と向き合う～

肝がん治療における最大の問題点は、再発しやすいことです。逆の見方をすると、「肝がんは再発するもの」とわかって、定期検査を受ければ、再発を早期発見して、再度有効な治療ができます。決してあきらめないで治療を続けることが大切です。

肺がん・縦隔腫瘍／乳がん・乳腺腫瘍／胃がん・胃腫瘍／大腸がん・大腸腫瘍／食道がん／肝がん・肝腫瘍／胆嚢がん・胆管がん／
 膵がん・膵腫瘍／前立腺がん／膀胱がん／腎がん／尿路がん／精巣がん／血液腫瘍（白血病、リンパ腫など）／子宮がん／
 卵巣がん／脳腫瘍／骨軟部腫瘍／頭頸部腫瘍／小児がん／皮膚腫瘍／原発不明がん／性腺外胚細胞腫瘍／眼腫瘍



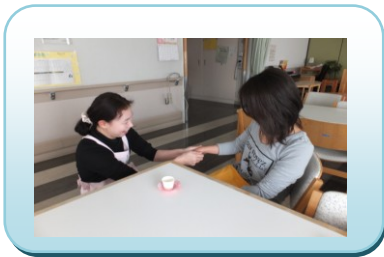
病院ボランティアの活動紹介



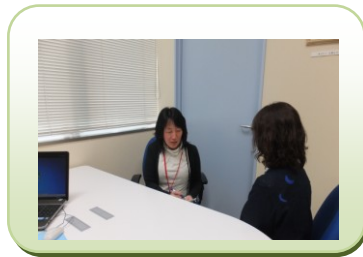
小児病棟を中心に始まったボランティア活動も、本格的に委員会を設置し、個人ボランティアを受け入れ、3年が経過しました。当初は、外来での案内活動が主でしたが、現在は、縫製・アロマセラピー活動・通訳（中国語・韓国語）・音楽活動・患者図書室内案内等、随分、活動内容も充実しました。入院患者さんへの活動も始め、車椅子での庭園散歩に付き添ったり、話し相手になったり、また身よりのない方の洗濯等のお手伝いも行なっていただいています。外来では電子カルテシステム導入後の「予約患者受付機」での受付方法や受診方法、また検査室の場所やいつ採血を受けるのかと戸惑われている方に、積極的に「お手伝いしましょうか」「どちらに行かれますか」と声をかけていただいています。



外来活動風景



アロマセラピー実施中



中国語通訳中



さくらホールでのコンサート

ボランティア活動が活発なところは病院の質を上げると言われています。イベントやコンサートを定期的で開催し、療養生活での辛い治療の合間に楽しいひと時を過ごしていただきたいと多くのパフォーマーや音楽ボランティアの皆さんに協力いただいています。

当院でのボランティア活動時間が通算 300 時間、500 時間に達した方には感謝の意をこめて感謝状を贈呈。これまで 6 名の方を表彰しました。

温かい医療の提供を実践するためにも、ボランティアさんの活動が自然に病院の中に浸透し、お互いが幸せな気持ちを満たされるようになったらと思っています。



病棟テイルームでのミニコンサート

大阪市立総合医療センター講演会開催予定

第 49 回 日本外科学会近畿地方市民公開講座

知っておきたいこどもの救急

外傷と異物誤飲

平成 25 年 8 月 25 日 (日)

午後 2 時より

大阪市立総合医療センター さくらホール

※参加費無料 ※申込不要 ※手話通訳あり

市民医学講座

平成 25 年 9 月 7 日 (土)

午後 2 時より

大阪市立総合医療センター

さくらホール

※参加費無料 ※申込不要 ※手話通訳あり